甲斐の金山から　平成14年10月23日　第22号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

小松美鈴学芸員が金メダル

世界砂金掘り大会で日本人初の快挙

今夏、８月26日（月）～９月１日（日）の１週間、北海道・浜頓別町でＷＧＡ（世界砂金掘り協会）主催の第27回目にあたる「世界砂金掘り浜頓別大会」が開催され、出場した当館の小松美鈴学芸員が「女子初心者の部」で見事優勝、金メダルに輝きました。

この世界砂金掘り大会は1974年にフィンランド大会に始まり、毎年、世界各地で開催されているもので日本大会は初めて。今大会もフィンランド、スウェーデン、オランダ、オーストラリア、フランス、チェコ、アメリカ、南アフリカなど17か国から300人を超える参加者があった。大会は９部門に分かれており、これまでの大会で日本人の入賞は、「男子初心者の部」での第３位が最高位、今回の優勝は日本の関係者にとっても価値ある勝利となりました。　（関連記事Ｐ７～Ｐ８掲載）

夢をもとうよ！ 湯之奥金山（甲斐金山）の世界遺産登録!!

民間レベルでの運動が始まりました

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長　谷　口　一　夫

県下市町村で活性化施設建設の動き活発

最近の新聞報道で目をひくのが、県下の市町村における資料館、歴史公園など活性化施設建設の動きです。21世紀を見据えたものとして評価できます。

観光立県を目指す山梨県や、観光を活性化の目玉とする市町村にとっても、こうした「自然遺産」、「歴史遺産」それに「社会遺産」を活用することは地域を活性化する上で極めて大事なことと言えます。

しかし「灯台下暗し」で地域の「有形・無形の財産」の存在すら知らずにいる人も多く、この活性化施設建設の動きは地域を見直す上で絶好の機会ともなっていくと思います。

地域を正しく知ることで地域に誇りがもて他地域の人に自慢できます。それを活性化の原点と捉え、それぞれの地域の人が、今、それを実践しようと考えて行動しています。

その表われが芦安村の「南アルプス山岳文化館」、長坂町「三分一湧水」の公園整備と活性化施設「三分一湧水館」、小淵沢町「八ヶ岳登山歴史館」、富士吉田市では、富士山山頂にあったレーダードームを同市新屋の活性化エリアへ「富士山レーダードーム体験学習施設」を核に「富士山親水公園」（仮称）を、これらは既に起工式を行い建設に入っていますが、それぞれが活性化のコンセプトをもって進めています。

また、計画中のものには国土交通省が構想している白根町御勅使川の石積み出しから、韮崎・白根に残る「将棋頭」、白根・八田に残る「堀切」、韮崎の十六石、韮崎・竜王の高岩、竜王の信玄堤、水防林、竜王・昭和の霞堤（群）など信玄堤エリアをトータルで捉え、これまで沿岸各市町村が個別で検討してきた「水」「治水」に関わる博物館・資料館等の計画を『仮称・大規模治水歴史公園「夢プラン」の基本構想』案で『富士川ミュージアム』として個別に治水遺構へ統一のサインで導入するなどの整備計画があります。

このほか、既に山梨県内では国指定史跡（勝沼氏館跡、武田氏館跡、新府城跡、谷戸城跡）、県指定史跡（甲府城跡）などの史跡整備（公園）が行われていたり、既に完成し供用されているところの国指定史跡・県指定史跡公園も多く見られます。

このように山梨県全域に、それぞれが地域固有の歴史像を紹介する「文化施設」が整備されたり、史跡公園として整備が進められています。

かつては、教育不毛の地とも言われた山梨県は、ここ20～30年間の間に大きな変貌を遂げ、教育先進県と言われた長野県などと比べても格差が見られなくなっています。

これは、こうした施設を必要とする住民意識と、それらを中心に活性化を図りたいと言う「地域住民の総意」が実を結びつつあるということです。

下部町は魅力がいっぱい

私ども下部町には、全国に誇れる「木喰上人誕生の地／木喰の里微笑館」、砂金に代わる日本で最初の山金山である国指定史跡「湯之奥（中山・内山・茅小屋）金山」、国重要文化財「門西家住宅」など歴史遺産や「百名山の毛無山」や「5000円札の本栖湖と富士山景観」、「本栖湖から下部へ下る国道300号線の景観（紅葉／新緑は正に下部いろは坂）」、「ホタルの里／一色」、「ホタル公園」、「ヤマメの里」、「椎茸などの産物」などの自然遺産。10世紀の歴史をもつ「下部温泉郷」、国指定史跡「湯之奥金山」ガイダンス館である「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」、国道300号線のしもべの情報発信ステーションである「農村文化公園／しもべ道の駅／ホタル・ドーム」などの社会遺産など、数多くの「下部町民が自慢できる」素材があります。

その素材をどう活用するか

これらをどのように活用していくかが「下部町に課せられた課題」です。観光立町でしか、本町が目

写真②　世界遺産登録めざす湯之奥金山の景観

写真①
身延方面から見た蝙蝠山。湯之奥金山遺跡（中央大ガレ付近に内山・茅小屋金山遺跡、右毛無山に中山金山遺跡）

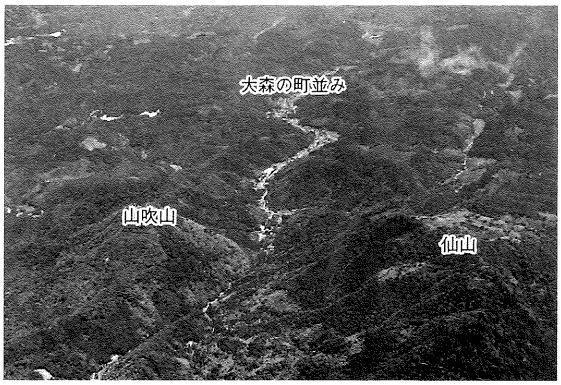
指すものがないとすれば、前記した素材を活かす方法こそが大事です。

湯之奥金山を世界遺産登録へ

私は、いま「湯之奥金山の景観とその歴史遺産」を世界遺産登録することを考えています。県外からも多くの賛同者が出てきています。湯之奥金山を含めて「甲斐国」（山梨県）には、黄金の国ジパング伝説を築いた中世の歴史的な金山遺跡が30か所近く眠っています。その中でも特に古い初源的な様相を見せているのが湯之奥金山です。

湯之奥金山の遠景を身延方面から見ると（写真①）神秘的な「蝙蝠山（こうもりやま）」と呼ばれる形体をしています。同町下山上空から見ると（写真②）のように真正面に富士山を展望し、湯之奥３金山（左側の山脈）と下方には歴史の中で大きな役割を果たした「湯之奥区」の集落が展望できます。正に甲斐金山遺跡を代表するシンボル的な景観です。

15～16世紀の日本は、西日本に銀山、東日本に金山が開発され採掘された歴史があります。その西日本の島根県の「石見銀山」（写真③）が、世界遺産に暫定登録されました。湯之奥金山が甲斐金山遺跡として「世界遺産登録」される日も必ずやってくると確信し、登録に向けての民間運動を続けて行きたいと思っています。思わないことは実現しませんし、思って行動すれば実現に近づきます。



写真③　世界遺産暫定登録された硯銀山の景観

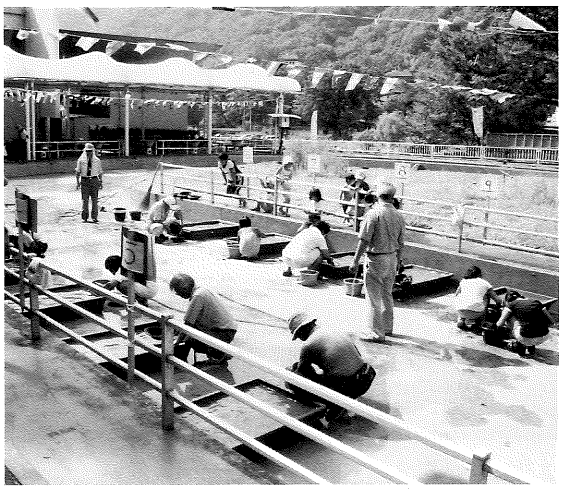
登録されれば世界の湯之奥金山（甲斐金山）

登録が実現したときを想像して下さい。世界遺産もピンからキリまであるでしょう。エジプトのピラミッドや中国の万里の長城がピンなら、湯之奥金山がキリでもよいでしょう。それでも山梨県のこの峡南の地が世界に知れ渡ります。こんなに活性化につながる素材が身近にありながらこれを活かさない手はありません。また、運動の過程でも湯之奥金山や下部温泉郷など地域の知名度のアップ（活性化）にもつながります。当然、それほどの「歴史的な価値」をもった金山ということは改めて説明するまでもありません。湯之奥金山の学術的な全容を知りたい方は、湯之奥金山博物館へ是非お出かけ下さい。

また、世界遺産登録を賛同される方は金山博物館にノートがありますのでご署名をお願い致します。

こどもプログラムで

第２回 砂金掘り大会　　８月３日㈯



８月３日㈯、今年度夏休みイベント第一弾として「第２回　湯之奥金山博物館砂金掘り大会」を開催しました。

こども（小学生）、ジュニア（中学生）、男女初心者、ベテランの全４部門で参加者を募集し、砂金採りは一度も経験したことがなく全くの初心者という人、逆に博物館の体験室に何度も来てくれている人など様々でしたが、県内外から大人こども合わせて約70人の参加者が集まりました。

基本的な競技方法は「世界砂金掘り大会」や「全日本砂金掘り大会」を参考にしたもので、砂の量は全部門共通して10kg。バケツに用意した10kgの砂の中に、事務局で決めた数の砂金が混入されており、その砂を制限時間20分以内に汰り分けます。採りこぼしがあった場合は、砂金１粒につき５分のペナルティが加算され、最終的に採った砂金の個数と、ペナルティも加味されたタイムによって、汰り分けの正確さとスピードを競うものです。審判員（計測）には多くのこどもが率先して当たってくれました。

午前中はこども部門とジュニア部門を競技しましたが、こども部門は参加者が約40人、小さなこども達には、皿に砂を移すだけでも大変な作業のようでしたが、それでも懸命に汰り分けていました。そして中学生部門、博物館で何回か砂金掘り体験をしている子も多く、さすがに手馴れたものでした。

昼食時間を挟み、男女初心者、ベテラン部門の時には気温も一番暑い盛りで、みんな大変そうでしたが大人も頑張ってくれました。

全部門競技が終わったところで、各部門上位３人による総合優勝決定戦を行いました。時間の都合で参加できない人もいましたが、決定戦では大人もこどもも合わせて全部で10人、ベテラン参加者が優勝するかと思いきや、総合優勝をさらったのは小学５年の女の子でした。

すべての競技が終わり、表彰式では谷口館長から、部門ごとの１、２、３位に表彰状とメダル、総合１、２、３位にはさらにトロフィーが手渡されました。他の全員には参加賞を渡しました。

当日は、リバーサイドパークでヤマメ祭りも行われており、博物館も来館者で大賑わい。参加者もあっちこっちイベントの掛け持ちで走り回っていましたが、盛りだくさんの一日を過ごせたようです。

この「砂金掘り大会」は恒例行事にしていく予定ですが、参加者の皆さんの意見を取り入れながら、より楽しめるイベント作りをしていきますので、次回も是非参加してください。

大会の結果は次のようになりました。

総合優勝は岩松芽衣さん

優勝決定戦　（砂金混入数　８個）

	名　前	タイム	個数
1	岩松芽衣	7分30秒	8個
2	木内香奈	8分01秒	8個
3	金川麻矢	10分25秒	8個
4	遠藤明美	10分35秒	8個
5	牛島敏博	12分52秒	7個
6	望月　都	21分24秒	5個
7	植松春雄	24分07秒	5個
8	吉野保美	24分51秒	5個
9	高岡伸五	30分15秒	3個
10	岩松　慧	32分04秒	3個

男女初心者の部（砂金混入数　８個）

	名　前	タイム	個数
1	飯沼保裕	17分39秒	7個
2	牛島敏博	14分54秒	6個
3	遠藤明美	18分51秒	7個
4	中込秀美	19分32秒	7個
5	曽谷英輝	21分57秒	5個
6	米倉京子	28分24秒	5個
7	若狭政雄	28分40秒	4個
8	一瀬　仁	29分24秒	4個
9	石部直樹	39分42秒	2個
10	遠藤歩美	56分55秒	0個
11	一瀬けい子	58分18秒	0個
12	山崎香織	タイムアップ	
13	高貫博美	タイムアップ	

パ　ワ　ー　全　開　!!

第２回 こども金山探検隊　８月10日(土)～11日(日)

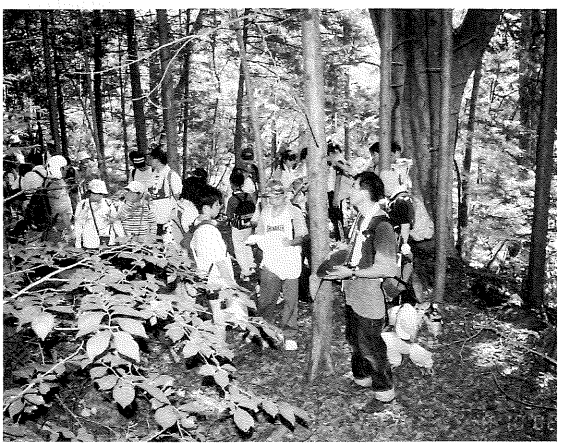
砂金掘り大会に引き続き、夏休みイベント第二弾、「こども金山探検隊」は、８月10日(土)～11日(日)の２日間にわたって行われました。

湯之奥金山を探検し、金山衆の技術を楽しみながら実体験してみようというこの企画。今回は連続２日間という、前回に比べ日程を短縮しての開催でしたが、昨年よりもさらに参加希望者が多く、町内を含め県内はもちろん、県外からも大勢集まってくれ、隊員35人、大人16人、これに事務局も加わり、60人近い人数での大事業となりました。

１日目の予定は湯之奥・茅小屋金山遺跡現地見学と粉成・汰り分け作業です。

博物館でのオリエンテーション後、湯之奥・茅小屋金山遺跡に向かいました。茅小屋金山は湯之奥３金山の中でも最も近く、難易度の低い金山です。それでも川を渡ったり、足場の悪い岩場を歩かなければならない箇所があり、それなりに大変だったようですが、現地に行くまでに所要した時間は約１時間、「意外と早かったね」などという声も聞こえてきました。

現地では、谷口館長の話を聞きながら、テラスの状況や、ズリの堆積層などを見学後、鉱石をサンプル的に採集したところで、ちょうど昼食時間。テラスから下り川べりで昼食を食べましたが、緑に囲まれた環境の中で、それぞれに爽やかなひと時を過ごせた様子でした。

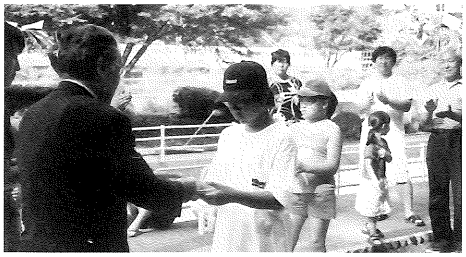


現地での説明に聞きいる参加者

昼食後、下山しながら、途中にある石造物を見学、そして見学者全員お墓にお線香を手向け、午後２時半には博物館に全員到着しました。

少し休憩してから今度は博物館で粉成作業ですが、山登りから帰ってきたばかりだというのに、隊員達からはその疲れはほとんど見えません。むしろ次の作業にわくわくしている感じすら受けました。

粉成作業では、予め焼いてあった鉱石を叩き台の上でハンマーで砕き、それを湯之奥型、黒川型、定



ジュニアの部（砂金混入数　８個）

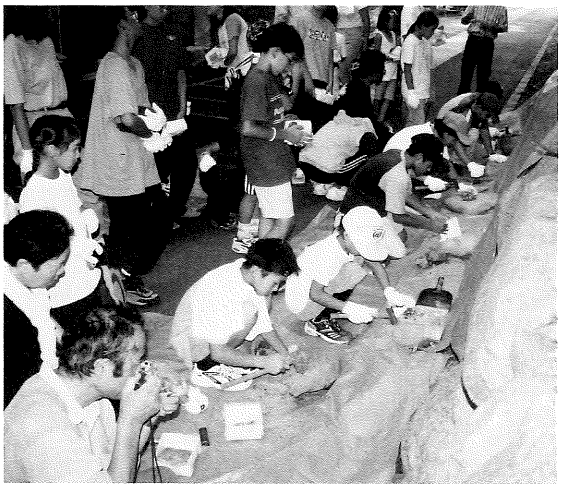
	名　前	タイム	個数
1	木内香奈	11分29秒	7個
2	中沢明日香	13分58秒	7個
3	岩松　慧	19分16秒	5個
4	久内俊幸	28分38秒	4個
5	飯沼陽一	39分29秒	2個
6	西澤総一郎	42分46秒	1個
7	安達桂佑	49分11秒	1個

ベテランの部（砂金混入数　７個）

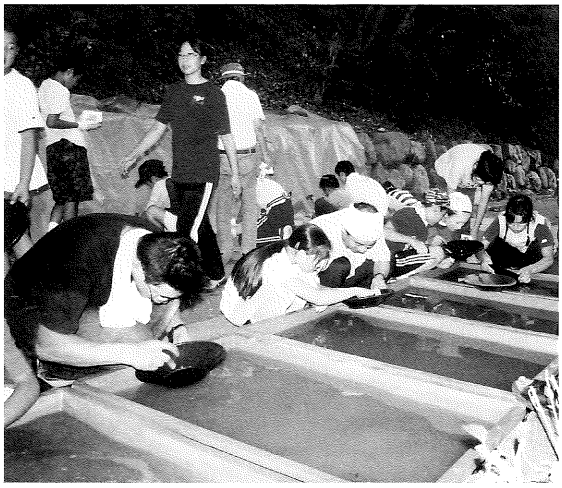
	名　前	タイム	個数
1	吉野保美	9分08秒	7個
2	高岡伸五	10分37秒	6個
3	植松春雄	12分52秒	6個
4	赤池一博	23分50秒	4個

こどもの部　（砂金混入数　８個）

	名　前	タイム	個数		名　前	タイム	個数
1	望月　都	8分56秒	8個	19	中込元気	40分00秒	4個
2	岩松芽衣	9分02秒	8個	20	飯沼直人	41分35秒	2個
3	金川麻矢	15分02秒	7個	21	小山田駿平	43分19秒	2個
4	赤池千里	16分03秒	7個	22	丸山絢美	44分19秒	2個
5	佐野晴香	17分48秒	6個	23	中沢祐美	47分04秒	2個
6	中沢　舞	17分48秒	6個	24	依田そうへい	42分41秒	1個
7	吉野愛子	18分17秒	6個	25	桐戸寛顕	43分28秒	1個
8	佐野磨知子	18分23秒	6個	26	依田尚彌	45分13秒	1個
9	西澤未来	21分56秒	6個	27	対馬小幸	58分55秒	0個
10	太田れん	28分14秒	5個	28	内田愛美	タイムアップ	
11	中沢怜子	29分58秒	5個	29	中込優美	タイムアップ	
12	岩松　匠	30分38秒	4個	30	米倉隆誠	タイムアップ	
13	小林真伊	31分22秒	4個	31	保坂みづき	タイムアップ	
14	桐戸千佳	34分56秒	3個	32	伊藤里紗	タイムアップ	
15	伊藤晃太郎	36分34秒	3個	33	米倉一聖	タイムアップ	
16	保坂直広	39分36秒	3個	34	依田怜奈	タイムアップ	
17	小山田孝輔	38分17秒	2個	35	武藤拓矢	タイムアップ	
18	対馬武文	41分25秒	2個	36	武藤あや美	タイムアップ	



鉱石を砕くのも大変です



金が入っているかどうか……

形型、磨り臼と4種の石臼を使って粉状にし、それをパンニングして金を採集します。本当に小さな針の先くらいの金でも、見つけると「あっ!!」と嬉しそうな顔。辺りが暗くなってきても作業を懸命に続けている子もいましたが、鉱石が詰まって石臼が回転しなかったり、パンニングにてこずったりと、悪戦苦闘しながらも皆、まさに“楽しみながら”作業を進めていました。

この日は作業終了後、バーベキュー大会。今度は保護者の皆さんが率先してお肉や野菜、焼きそばを調理、協力してくれたお陰で、みんな美味しくいただくことができました。お父さんやお母さんが食べている間、隊員達は花火を楽しんだり、話をしたりとお互いに親睦を深めていたようでした。

翌日は灰吹作業とオリジナル甲州金作りです。どの作業も真剣でしたが、出来上がった金粒をブラシで磨き、輝きが出てくると「おお、金だ!」「私のより光ってるよ」などと歓声があちこちから聞こえてきました。その後、金粒を丸く叩き延ばし、好きな刻印を打ち込んだ甲州金を、自分でデザインしたケースの中に入れ出来上がり。自分で磨いた金に愛着が湧いてきたようで、皆大事そうに持っていました。

修了式では、参加隊員全員に谷口館長から修了証書が手渡されましたが、みんなの満足そうな顔がとても印象的でした。

両日ともに天候にも恵まれ、アンケートにも「楽しかった」というこども達の言葉など、読んで嬉しくなる意見がたくさん書き込まれていましたが、参加してくれた皆さんの協力を得て無事、プログラムを終了することができました。

ホームページアクセス 20,000人目は、小山さん御一家

ホームページを開設してから、約2年が経過しました。多くの方に閲覧していただき、最近では、「ホームページを見ました」という来館者も多くなりました。そんな中、今年の6月、ホームページもアクセス件数20,000を突破しました。カウンタゲッターは、小山憲一さん（長野在住：当館友の会会員）。小山さん御一家は、ホームページを見たのがきっかけで当館に御家族で何度も訪ねてくれています。

誌上博物館　世界砂金掘り浜頓別大会レポート

競技の様子

今夏、８月26日(月)～９月１日(日)の１週間、北海道浜頓別町において「世界砂金掘り浜頓別大会」が行われました。

博物館で行った過去２回の「砂金掘り大会」は、この世界大会を参考にしたものです。日本が開催地になった今回は、実際に現場に行き、大会の様子を見ることの出来る絶好の機会ということで、視察を兼ね参加しましたので、今回の「誌上博物館」ではこの大会の様子を報告します。

この世界大会、主催はＷＧＡ（世界砂金掘り協会）と、今年の大会を誘致した北海道浜頓別町砂金掘り大会実行委員会によるもので、1974年のフィンランド大会から始まり、加盟国を開催地に選定し、毎年行われてきたものです。27回目となる今年、初めて日本で行われ、大会会場となった北海道浜頓別町では町制50周年記念、また開村85周年記念としてこの大会を開催しました。そもそも、この浜頓別周辺の地域は、明治末ころからのゴールドラッシュに伴ない、大産金地として知られ「東洋のクロンダイク」とまで呼ばれました。当時は、年間１万人以上の人々が一攫千金を求めウソタンナイに集まってきたと言われ、一躍産金地として名を馳せたこの町が会場として選ばれたことも納得できます。

今大会では日本をはじめ、フィンランド、スウェーデン、オランダ、オーストラリア、フランス、チェコ、アメリカ、南アフリカなど17か国から、300人以上の参加者が集まりました。

大会開催期間のうち、前半２日間は参加者達によるシンポジウムや近隣の砂金採り体験場などの見学会が催され、後半29日から各部門予選を皮切りに、９月１日の決勝戦まで、５日間にわたって競技が行われました。

クッチャロ湖畔に設置された特設会場はとても広く、伸び伸びとした環境のせいか、各国の参加者達からは本当に大会を楽しみにしてきた、そして楽しんでいるという様子が伝わってきました。

現地に到着したのは28日の正午。この日の午後、オープニングセレモニーのインターナショナルパレードでは、浜頓別町福祉センター前駐車場から競技特設会場に向け、各国のプラカードを持った地元中学生の先導で、30分程度行進しました。ところが、パレード中の天候は曇りから土砂降りの雨となり、自国の民族衣装に身を包んだ参加者も多くいましたが、せっかくの衣装もびしょ濡れでした。そんな雨の中でもたくさんの町の人たちが、選手団に「頑張って」と声援と拍手を送ってくれました。パレード後、開会式、そして浜頓別町主催の歓迎会（ウェルカムパーテイー）が行われました。

一夜明けて、29日から本戦開始です。大会会場で目に飛び込んできたのが、各選手が手にしているそれぞれのパンニング皿の形。パンニング皿は大会規定で決められた50×50×15の規定内であれば、どんな形でも良いわけです。全体的には一般的な丸いパンニング皿を使う人が多いのですが、自国の伝統的な道具を用いる人もいれば、中には、正確性とスピードを追求し、この大会のために新しい形のパンニング皿を考案し作ってきた人もいました。それぞれのパンニング皿を手にし、男子初心者、男子ベテラン、女子ベテランの予選が始まりました。

試合ごとに人数はまちまちでしたが、だいたい一試合30人程で競技し、上位者が次の試合に残ることができます。各試合を見ていると、選手間にいろんな駆け引きがあります。空になったバケツを放り投げて他の選手を牽制したり、（他選手の競技の妨げになる行為ではありません）競技終了の合図を大きな声で叫んだりと、焦りやプレッシャーを与えるのも一つの作戦なのです。観覧席でも自国の参加者を応援する姿や応援歌は、そのお国柄を表わしていて、とても面白いものでした。

私の出番は団体戦と、個人戦・女子初心者の部でしたが、29日の団体戦予選が初戦となりました。団体戦は３人一組で、チームメンバー全員にそれぞれ10kgの砂入りバケツが与えられ、最初の選手が自分の砂を汰り分けたら次の選手と交代というように、リレー形式でパンニングしていきます。制限時間は20分、この時間内に３人全員が競技を終えなければなりません。砂金混入数は、競技が終わるまで分からないうえに、試合ごとに異なります。今回の場合は15個から18個が入っていましたが、３人のバケツに平均的に入っているわけではないので、予想がつかないのです。

さて、チームメンバーは博物館友の会会員でもある広瀬義朗氏（神奈川県在住）と野村敏郎氏（兵庫県在住）の２人。博物館にもよく足を運んでくれるこの２人は、個人参加で既に大会出場を申し込んでおり、「どうせ会場で人数が集まるのなら、せっかくだから、みんなで団体戦も出場しよう」という理由からチームを組んだものです。予選結果は３人の健闘で通過。準決勝も無事勝ち進みました。

決勝戦は最終日の９月１日。この日はすべての部門の決勝戦が行われる日なので個人戦決勝もありました。団体戦の決勝前に女子初心者の部決勝戦。これまで人の競技を見たり、団体戦へ出場してみて感じたのは「とにかく一つでもペナルティがあったらだめだな」ということでした。初心者の部は男女共に砂の量は15kg。外人選手の多くがするように、これだけの量の砂を一気に皿に移すのは難しいと思い、砂を手で小分けに掬って適量をパンニングし、バケツが無理なく持ち上げられる量になったら、最後までふるい落とす方法をとりました。

競技中、大会本部の「４分経過しました」という声のアナウンスが聞こえたときにはさすがに「ゆっくりすぎたかもしれない」と思いましたが、すべての砂をパンニングし終えチューブに入れた砂金の粒は10粒、競技終了した選手はまだ誰もいませんでした。

自分の競技が終わったら、その選手は競技フィールドから出て、審査席で審査を受けます。審査員が砂金の個数を何度も確認をし、さらに自分も確かめてから署名をし、競技終了となります。

出口で待っていたみんなは「早かったね」「上位にいけるんじゃないの？」とねぎらってくれました。自分では「もしかしたら12粒だったかも」と疑っていましたが、それは結果待ち。掲示板に競技結果が張り出され、直後に大会本部から結果アナウンスが流れました。「１位、小松美鈴さん４分14秒、２位…」。

周りは「やったー、優勝だよ！」「おめでとう‼」と大変喜んでくれ、もちろん自分も嬉しかったのですが「え、本当に？」というのが、その時の素直な感想でした。

競技委員長に「幾つだった？」と聞かれながら競技フィールドを出ます

個人戦の結果が分かり、安堵と喜びの中で、団体戦の決勝戦。団体プレーという意味では、個人戦よりも緊張しました。チームメンバー３人とも調子が良かったのでしたが、結果は総合14位。一つとりこぼしがあり、タイムは22分51秒。もしペナルティがなかったとしても全体で９位です。トップは７分21秒でしたから、さすがにこの結果には世界の壁は厚いと感じました。

競技終了後の表彰式では１位と刻印された盾とメダル、そして賞状をいただきました。

チームメンバーの２人も「出来るなら来年も参加したいね。本当に楽しかった」というのは野村氏、「これまでのパンニングで自分では落としていないつもりでも実は落としていたというのは、この大会に出なければ分からなかったし、砂金を通じて海外の人と交流出来たことも良かった。いろんな面で本当に勉強になった」と語ったのは広瀬氏。私自身も、この大会に参加できたことはとても勉強になりました。また加えて良い結果を得ることも出来、大変有意義な視察となりました。視察で見たこと、聞いたこと、そして感じたことなどを参考に、今後の博物館事業に活かしていきたいと感じています。

（学芸員　小松美鈴）

私の研究ノート⑪

灰吹法の技術に挑戦

高岡　伸　五（湯之奥金山博物館友の会会員）

湯之奥金山博物館では、昨年夏に続いて今夏も「こども金山探検隊」プログラムが実施されました。16世紀（1,500年代）の山金産金技術（砂金でなく鉱石から金を採る）を再現、こども達に体験させるプログラムで、こども達にとっても大変エキサイティングな催しでした。

昨年は灰吹き、色揚げなど東京大学でも教鞭をとっている和光金属技術研究所代表の伊藤博之先生によって行われ大成功を収めました。これについては金山博物館の公開講座記録集で刊行されるという計画がありますので、それをご覧頂きたいと思います。

さて、今回は私が挑戦してみましたが、やってみますと色々問題点が起こりました。試行錯誤の結果、最終的には灰吹きを成功させることができました。

一番、重要なのはルツボの「灰床」づくりにありました。灰床の配合量によって結果がまちまちになることも、実験を通じて分かりました。次表はそれを一覧表にしたものです。

	木炭粉	炭酸カルシュウム	炭酸カリウム	結果
No.1	1	1	−	不可
No.2	3	1	−	不可（爆発）
No.3	3	−	1	可
No.4	3	1	1	可
No.5	3	3	1	良

実験条件と結果

(1)電気炉内は還元雰囲気で650℃～700℃に設定。

(2)650℃～700℃の電気炉内で20分間過熱。

(3)ガス・バーナーでさらに過熱し金＋鉛の合金をつくる。

(4)試料に使った金は金95％＋銅５％の合金。

(5)金＋鉛の合金に酸素を吹き込み酸化を促進させる。

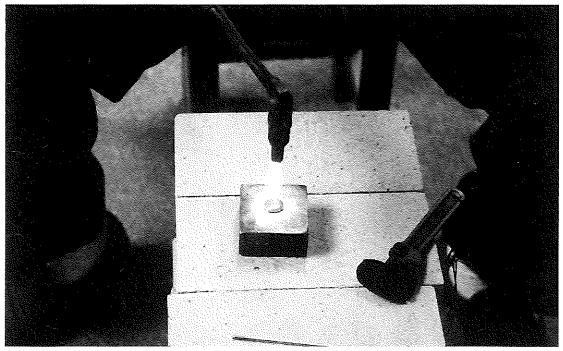
(6)鉛と銅が酸化され灰床へしみ込み精錬された金だけが残る。

(7)実験時間は１試料約22分～23分程度であった。

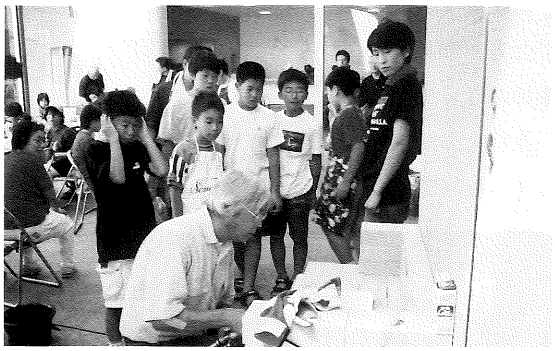
(8)以上の実験結果から灰床はNo.５の配合が灰吹に最も効果的であることが確認された。

(9)灰床の硬さは指先で押して、ある程度の硬さが必要だが、親指で押して跡がつく程度の硬さが良いことが分かった。

(10)灰吹きを行うとき、ルツボ内の温度を保持するため木炭粉と試薬の配合量が重要となる。No.５試料がうまく灰床にしみ込むことなどから、灰床条件を一番満たしていると考えられる。



ガス・バーナーで金を熔かしている様子



灰吹実験の様子を興味津々で見つめるこども達

館からのお知らせ

公開講座のお知らせ

平成14年度　湯之奥金山博物館公開講座

河内地方の諸金山

～甲斐国・河内における金山史研究の歩み～

通算回	期　日	演　題	講師名
第27回	11月9日(土)	河内の諸金山②（南部・身延・下部の諸金山）	郷土史研究家　加藤為夫
第28回	12月14日(土)	湯之奥金山と学校教育 （学校教育に取り入れられた湯之奥金山）	元下部町教育長　二宮美仁
第29回	平成15年 1月18日(土)	穴山梅雪と金山（文献からみた穴山氏と金山）	山梨県史編さん室　平山優
第30回	2月22日(土)	甲斐金山の展望（金山史研究の現状と将来）	帝京大学山梨文化財研究所 所長　萩原三雄

主　催　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
下部町教育委員会
会　場　湯之奥金山博物館多目的ホール（ＪＲ身延線下部温泉駅下車・徒歩約３分）
時　間　午後２時～午後４時
受講料　無料
その他　◎　博物館見学及び砂金採り体験希望者には割引券を用意いたします。
◎　気象条件や講師の都合等により日程が変更される場合がありますので、その都度博物館へお問い合わせのうえ御来館ください。

親子映画鑑賞会

去る８月21日(水)、通算13回目となる夏休み親子映画鑑賞会を開催しました。これまでのアンケート回答に最も多かった「ハリーポッターと賢者の石」、「陰陽師」の２本を上映しましたが、それぞれに楽しんでくれたようです。

次回の映画鑑賞会は以下のとおりですので、どうぞお運びください。

平成14年10月26日(土)　午後６時30分～

編集後記

朝晩すっかり冷え込むようになりました。半袖シャツともお別れ、コタツをつけようかつけまいか悩む季節になりました。

衣替えも終わり、世間はすっかり秋模様。もう少しすれば博物館の周囲の山々も色づいてきます。葉の色が濃かったり薄かったり、色づく時期が早かったり遅かったりと、毎年同じではありませんが、その景色を楽しませてくれることには変わりありません。

10月からは恒例の公開講座も始まりました。気持ちよく晴れた日には、そんな山の風景を眺めながら、博物館へも立ち寄ってみてください。

博物館だより　第22号　平成14年10月23日
発行　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
ＴＥＬ　0556（36）0015
ＦＡＸ　0556（36）0003
博物館ホームページアドレス http://www 2. town. shimobe. yamanashi. jp/kinzan/　博物館Ｅメールアドレス kinzan@town. shimobe. yamanashi. jp